

海外自治体幹部交流協力セミナー2013(パリ事務所) 地方交流事業概要

【地方交流事業】

7月31日(水)【移動(東京→広島)、広島市施策説明、施設視察など】

(1)広島市施策紹介

企画担当課長より市の概要等について、産業振興部長より地域経済の振興施策の充実強化について説明があった。

続いて、参加者6人がそれぞれの自治体で力を入れて取り組んでいる施策等について説明があった。

(2)市内視察(広島平和記念資料館など)

副館長より解説を受けながら、広島平和記念資料館を視察した。参加者の多くが、初めて目にする写真やデータがほとんどで、現実起こったことを真剣に確認していた。

続いて、平和記念公園の慰霊碑を参拝し、献花を行った。



副館長による展示物の解説

8月1日(木)【被爆体験講話、市長表敬、工場視察など】

(1)被爆体験講話

被爆体験者自ら、1945年8月6日に体験したことを語っていただいた。参加者からは、それぞれの自治体の戦争体験を交えるなど活発な質疑応答があった。

(2)市長訪問

松井広島市長を表敬訪問し、平和への取り組みについて意見交換を行った。



松井市長を表敬訪問

(3)広島市施策紹介

広島平和文化センター理事長の講話に続き、平和推進課より、平和市長会議メンバーを地道に増やしたり、被爆体験の伝承者を育成するなど、広島市の平和への取り組みについて説明があった。

(4)マツダ工場見学

広島市で重要な産業の一つである、自動車の工場を視察した。自動車はフランスでも重要な産業であり、参加者はマツダの歴史や最新技術に対し高い関心を持って見学していた。



マツダの歴史の説明

8月2日(金)【熊野町訪問】

(1)筆工房見学

熊野町は広島市から車で40分ほどの距離にある。化粧筆では国内で圧倒的に1位のシェアを誇る町で、世界的にも知られている。町商工観光課職員の案内の元、まずは実際に筆を作っている工房（竹宝堂）を訪問した。会長や社長直々に筆作りの解説を受け、また実際に作っている現場も見学した。化粧筆が中心であるが、物づくり（書の筆から社会のニーズに合わせて化粧筆にシフトしていったことなど）という視点でも参加者の関心を集めていた。



熊野の筆作りの説明

(2) 筆の街交流館

参加者は筆を用いて絵手紙を体験できる施設を訪れた。平和への願いを筆に託す参加者もいた。

(3) 町長訪問

三村熊野町長を表敬訪問した。参加者の自治体それぞれに特徴的な特産品があるため、これらと熊野の筆について、終始和やかな雰囲気でお話された。

(4) 筆の里地工房

あらゆる筆を展示したり、筆の製作の実演を見学できるコーナーがある、町営の展示館を見学した。

(5) 酒蔵見学

フランスでも都市部では日本酒に対する興味が高まってきているということで、熊野町で伝統的な製法で日本酒を造り続けている酒蔵（馬上酒造）を見学した。参加者は、酒の製法だけでなく、酒蔵の佇まいなどにも関心を示していた。



三村町長を表敬訪問

8月2日(金)～4日(日)【ホームステイ】

参加者は、それぞれのホストファミリーと宮島をはじめ広島の名所旧跡を訪れていた。何より、日本の一般家庭の生活や食べ物などを体験する貴重な機会となった。

8月4日(日)【平和市長会議傍聴】

(1) 平和市長会議

大きな国際会議である平和市長会議が開催されており、フランスからの参加自治体（パリ近郊マラコフ市）が報告する時間帯もあったので、全員で傍聴した。

8月5日(月)【意見交換会】

(1) 広島市・熊野町との意見交換会

午前参加者で意見交換会のための打ち合わせの時間とし、午後に開始した。

参加者の自治体の注力している施策や、広島市・熊野町の物づくりに対する自治体の取り組み、フランスの物づくりの伝統



意見交換会の様子

を次世代に引き継ぐための国や自治体の取り組みや、恒久平和への取り組みを次世代につなげる広島市の取り組みなど、非常に多岐にわたる分野で意見が交わされた。

8月6日(火)【平和祈念式典出席、移動(広島→東京)など】

(1)平和祈念式典出席

大変な混雑の中であったが、平和祈念式典に出席した。

参加者も、この日は日本にとって、また世界にとって非常に重要な日であることをよく理解しており、終始神妙な面持ちで参列していた。



平和式典の様子